

熱川温泉病院 呉 夢琪

功 績 病状に悲観し精神的に不安定であった患者さんの心に寄り添いながら、不安を取り除くために工夫を凝らした看護を実践。心の平穏を取り戻し、退院後の楽しく充実した日常生活をもたらした功績。

推 薦 者

推 薦 理 由

相談員 松尾 勇子

I・Hさん（70代・男性、右脳梗塞による言語障害など）の辛いお気持ちに共感し、心の平穏を取り戻すため看護に取り組んだ彼女の仕事ぶりは、日々様々な病状から不安な気持ちを抱えている患者様と接する私たちスタッフの励みになります。是非理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

入院当初、明らかな麻痺はなく、左上下肢の筋力低下による運動にわずかな稚拙さがみられ、高次脳機能障害により全般性注意障害・遂行機能障害・日時等の認知障害等が認められました。また、思い通りにならない自らの症状に落胆し感情のコントロールが効かず、病棟スタッフや相談員へ「病院で飼い殺す気か!」「ここで死ぬなら家で死んだ方がいい」などと発言することもありました。カンファレンスでは低下した筋力を回復させるのは勿論、在宅復帰には感情失禁の改善が必要であると判断。入院生活で落ち着きを取り戻せるよう看護・ケアをしていくことになり、担当したのが入職3年目の中国人看護師の呉 夢琪さんでした。

彼女は、I・Hさんから強い言葉を浴びながらも辛いお気持ちを察し、辛抱強く傾聴しました。困っていることや不満に思っていることを拾い上げ、病棟スタッフや相談員と話し合いながら、快適で安心した入院生活を送れるよう工夫しました。

○外出後、病室の場所が分からなくなりストレスを感じていることが分かり、病室入口に目印の魚の絵を貼り付けるアイデアを実践し、その後は迷うことがなくなりました。

○退院後は施設でのデイサービスが必要でしたが、面白くないからと強く拒否されました。そこで病棟でカラオケ大会の開催を提案。皆さんと歌って楽しい時間を過ごしてもらい、施設でもカラオケが楽しめることを伝えたところ、前向きに考えて頂きました。

リハビリを行った結果、ADLはほぼ自立。呉さんの努力の甲斐あってイライラすることがなくなり精神的安定がみられたことから退院調整を行い、9月上旬に自宅退院となりました。現在のご家族と過ごしつつ、デイサービスに通われています。先日、I・Hさんからお手紙を頂きました。そこには入院中のご自身の行動を振り返り、当院スタッフへの謝罪と感謝のお言葉や、施設で読書や皆さんと大好きなカラオケを楽しんでいる様子が記されており、呉さんも大変喜んでいました。